群教セ	G02 － 03
	平20.240集

地理的な見方や考え方を高める中学校社会科指導の工夫

― 見方や考え方の視点に基づいた課題解決型ワークシートの活用を通して ―

長期研修Ⅱ　研修員　佐藤　芳正

《研究の概要》

本研究は中学校社会科の地理的分野において、地理的な見方や考え方を高めることをねらいとしたものである。具体的には、資料から「どこに、どのように」「なぜ、そこでそのようになっているのか」などを読み取り、その視点に基づいた課題解決型ワークシートを活用して生徒の記述内容を毎時間評価し、助言をフィードバックする。記述内容の変容の分析と客観テストの結果から、地理的な見方や考え方の高まりを検証した。

キーワード　【社会－中　地理的分野　地理的な見方や考え方　課題解決型ワークシート　フィードバック】

Ⅰ　主題設定の理由

中央教育審議会等が地理教育に求めた今日的な課題の一つに、「地図・統計など各種資料からの必要な情報の読み取り、社会事象の解釈や事象間の関連の説明、自分の考えの論述」が挙げられ、新学習指導要領では中学校社会科の３分野にわたり解釈、論述といった言語活動に関する規定が数多く盛り込まれている。

また、平成20年度の群馬県学校教育の指針で示されている確かな学力の向上のために社会科では、「基礎的な知識と地図や統計資料等を読み取る技能とを確実に身に付けさせる場と、その知識や技能を活用して課題を考察させる場を意図的に設けるなど単元や授業構成を工夫する」ことが挙げられている。

さらに研究協力校の生徒の実態を見ると、平成20年4月に実施した全国標準学力検査の結果から、全国的な中学校社会科学習の課題と同様に、世界地誌的な学習や資料を読み取る力と読み取ったことをもとに論述する力が十分でないことが分かった。この原因として、社会科の授業形態が講義形式中心であり、課題解決的な授業が段階的継続的に取り入れられていないことが考えられる。

このような国、県、研究協力校の現状から、資料から事実を正しく読み取り、社会的事象を形成する複数の事実と自分の知識・経験を関連付けて課題の解決策を考える力を育成することが現在の中学校社会科の地理的分野の課題であるととらえた。そこで、資料を比較し関連付けて考察することや（地理的な見方）、その背景や要因を探究すること（地理的な考え方）を重点指導事項例として提示したいと考えた。

以上のことから、本研究では、地理的な見方や考え方の視点に基づいたワークシートを用いて課題解決学習を段階的に行い、生徒の考えや自己評価に教師がフィードバックする活動を継続的に行うことで、地理的な見方や考え方を高められると考え本主題を設定した。

Ⅱ　研究のねらい

中学校の社会科地理的分野の学習において、地理的な見方や考え方の視点に基づいた課題解決型ワークシートを活用する学習を継続的に行い、生徒の記述を評価し、助言するフィードバックを行うことで、生徒の地理的な見方や考え方が高められることを明らかにする。

Ⅲ　研究の見通し

１　見方や考え方の視点に基づいたワークシートの活用

地理的な見方や考え方の視点に基づいて作成した発問を段階的に配列した課題解決型ワークシートの毎時間の活用によって、地理的な見方や考え方を身に付けることができるであろう。

２　教師の助言のフィードバック

課題解決型ワークシートの生徒の記述と自己評価に教師が毎時間助言をフィードバックすることによって、生徒の思考や気付きを促し、身に付けた地理的な見方や考え方をさらに高めることができるであろう。

Ⅳ　研究の内容と方法

1　研究の内容

(1)　基本的な考え方

ア　地理的な見方や考え方を高めるとは

地理的な見方とは、日本や世界に見られる諸事象を位置や空間的な広がりとのかかわりで地理的事象として見いだすことであり、地理的な考え方とは、それらの事象を地域という枠組みの中で考察することであり、相互に深い関係があるので本来は地理的な見方や考え方として一体的にとらえる。学習の過程を考慮して分ける場合、以下の①が地理的な見方の基本であり②が地理的な考え方の基本となる。

> ①どこに、どのようなものが、どのように広がっているのか、諸事象を位置や空間的な広がりとのかかわりでとらえ、地理的事象として見いだすこと。また、地理的事象にはどのような空間的な規則性や傾向性が見られるのか、地理的事象を距離や空間的な配置に留意してとらえること。
> ②そうした地理的事象が、なぜそこでそのようにみられるのか、また、なぜそのように分布したり移り変わったりするのか、地理的事象やその空間的な配置、秩序などを成り立たせている背景や要因を、地域という枠組みの中で、地域の環境条件や他地域との結び付きなど人間の営みとのかかわりに着目して追究し、とらえること。
> 　さらに、地理的な考え方を構成する主要な柱が以下の③～⑤にあたる。
> ③そうした地理的事象は、そこでしかみられないのか、他の地域にもみられるのか、諸地域を比較し関連付けて、地域的特色を一般共通性と地方的特殊性の視点から追究し、とらえること。
> ④そうした地理的事象がみられるところは、どのようなより大きな地域に属し含まれているのか、逆にどのようなより小さな地域から構成されているのか、大小様々な地域が部分と全体とを構成する関係で重層的になっていることを踏まえて地域的特色をとらえ、考えること。
> ⑤そのような地理的事象はその地域でいつごろみられたのか、これから先もみられるのか、地域の変容をとらえ、地域の課題や将来像について考えること　（以上現行・新学習指導要領解説より）

これらの視点に基づいて、資料を比較し関連付けて考察したり要因探究したりする力が高まることが地理的な見方や考え方を高めることである。

イ　見方や考え方の視点に基づいた課題解決型ワークシートの活用とは

見方や考え方の視点に基づくとは、「どこに、どのようなものが、どのように」という視点で主題図などの資料を読み取れるようにしたり、その背景や要因を「なぜそこで、そのようになっている」という視点で探究できるようにしたりするための学習支援のことである。表１は、地理的な見方や考え方の視点を示したものである。

表１　地理的な見方や考え方の視点表

地理的な見方	①どこに、どのようなものが、どのように広がっているのか。
地理的な考え方	②なぜそこで、そのようになっているのか。 ③そこでしかみられないのか。 ④どのようなより大きな地域に属し含まれているのか。より小さな地域から構成されているのか。 ⑤いつごろからみられたのか。これからもみられるのか。

注：表中の丸数字で示した視点は、現行の学習指導要領解説書及び新学習指導要領解説書より引用したもの

課題解決型ワークシートには、次の２つの特長がある。①地理的な見方に基づいた発問に△、考え方に基づいた発問に◇を表示して、課題追究が見方や考え方を踏まえて段階的に進められるようワークシート上の発問を配列した。②ワークシート上に示された資料を基にして、他の資料と関連させながら課題追究を行えるようにした。単元全体を通して、このワークシートを活用することで、課題解決学習を段階的継続的に行うことができる。

ウ　継続的に教師の評価・助言をフィードバックするとは

課題解決型ワークシートの記述を評価して助言を与え、生徒への学習支援を継続的に行っていくことである。生徒は課題解決型ワークシートを通して地理的な見方や考え方の視点に基づいた発問に回答していき、最後にその時間の地理的な見方や考え方に関する評価規準に基づき、自分の達成度を自己評価する。そして、教師はその記述と振り返りを評価し、助言を生徒にフィードバックし、思考や気付きを促してより高いレベルの見方や考え方へ導く。

エ 「地理日記」とは

毎時間使用するワークシートをファイルして、ポートフォリオとして蓄積し、それをもとに再構築して仕上げた一枚ポートフォリオのことである。生徒自身が学習履歴を振り返り、毎時間記述した内容や毎時間の地理的な見方や考え方の自己評価を一覧して自己の変容を見つめることができる。生徒はワークシートの「振り返り」で、その時間の「地理的な見方や考え方」に関する具体的な評価規準に基づいて、達成度の自己評価を行う。その評価をワークシートと地理日記に書き込む。そして、まとめの過程でワークシートに添付した付箋の自由記述を地理日記に時系列に添付する。

また、教師は生徒の課題解決による記述の変化を一覧でき、地理的な見方や考え方の高まりを読み取ることができる。自作の客観テストと併用し、地理的な見方や考え方が高まったかを記述面から検証するために用いる。堀[*]哲夫氏の一枚ポートフォリオ評価を参考にアレンジした。

＊山梨大学教育人間科学部学部長の堀哲夫氏が2002年に開発したもの

オ 研究構想図

図１は、研究構想図である。

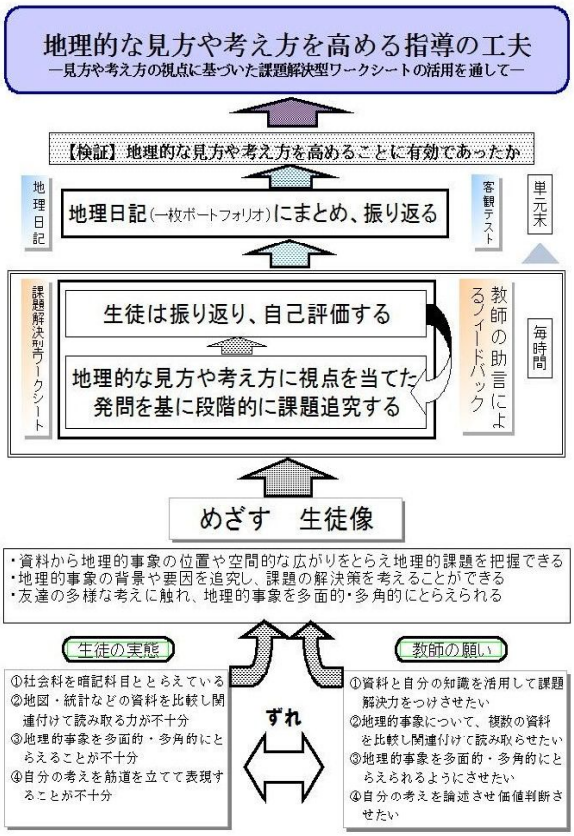

図１ 研究構想図

２ 研究の方法

研究の見通しに基づき、協力校第２学年の学級で以下の計画で授業実践を行い検証する。検証に当たっては、２クラスの結果から、集団としての変容を分析する。また、個別的には３名の生徒を抽出し、その変容を分析する。

(1) 授業実践計画

教科	社会科（地理的分野）
対象	第２学年　74名（２クラス）
単元	人口の特色をとらえよう 【学習指導要領地理的分野（３）　ア（イ）】
期間	平成20年10月中旬～11月上旬　６時間×２
授業者	長期研修員　佐藤　芳正

(2) 抽出生徒

生徒A	学習に対して意欲が高く、地理的分野においても能力が高い。知識が豊富で自分の考えを素直に表現できる。資料から読み取ったことと知識や経験を活用し、関連付けて課題解決させたい。
生徒B	地理的事象にはどのような空間的な規則性が見られるのかなどの地理的な見方は得意である。しかし、地理的な考え方がやや苦手なので、課題を追究させながら、なぜそこでみられるかといった背景や要因を考えさせたい。
生徒C	地理的事象には空間的な規則性がどのように見られるのかなどの地理的な見方や、なぜ、そこでみられるかといった背景や要因を考える地理的な考え方が苦手である。適切な助言をフィードバックし励ましたい。

(3) 検証計画

項目	検証の観点	検証の方法
見通し１	地理的な見方や考え方の視点で作成した発問を段階的に配列した課題解決型ワークシートを活用する学習を毎時間行うことは、地理的な見方や考え方を身に付けることに有効であったか。	・ワークシートの分析 ・アンケート調査の分析 ・事前・事後テストの客観評価
見通し２	課題解決型ワークシートの生徒の記述と自己評価を教師が評価し、助言を毎時間フィードバックすることは、生徒の思考や気付きを促し、身に付けた地理的な見方や考え方をさらに高めることに有効であったか。	・ワークシートの分析 ・地理日記の分析 ・事前・事後テストの客観評価

(4) 指導計画

地理的な見方や考え方を高めるための評価の観点を定め、ワークシートや地理日記の活用とポートフォリオ評価の系統性、関連性を踏まえて作成し、実践する。

単元の目標：世界的視野から日本の人口と人口密度、少子高齢化の課題を理解させるとともに、国内の現代的・地理的な人口問題を取り上げ、日本の人口に関する特色を大観させる

No.1

単元	人口の特色をとらえよう　（10月16日～ 11月 4日　6時間）				
過程	時	学習活動・内容　※○は中心発問	地理的な見方（△）・考え方（◇）	学習活動への支援	評価（◎ポートフォリオ）
つかむ過程	1	**「世界の人口分布と人口の変化」** ○あなたは、どんな条件のところに住んでみたいですか？理由もつけて考えてみましょう。 1　世界の人口分布の特徴と人口増加の様子を読み取る。 2　複数の資料から世界の人口分布や人口増加率に関する傾向を読み取り、その要因について考察する。	ワークシート1 △どの地域に人口が多いか読み取ることができる。 ◇人口分布の偏りがみられる要因を自然環境と社会環境に着目して考えられる。 △人口増加が高い地域と低い地域の共通点と相違点を読み取ることができる。 ◇人口増加率も地域的な偏りがみられる要因を発展途上国と先進国に分類整理して追究できる。	・どんなところに住みたいかを考えることによって、世界の人口の特色をつかみ、課題を考えるための糸口とできるようにする。 ・班でKJ法を用いることで、人が集まるところはどんなところか気づかせる。 個人記述→班で交流→数班発表 ・班でまとめたものを実物投影機を使って提示し、そこから学習課題を導き、課題を共有できるようにする。 ・地理的な見方や考え方の基本を示した分布図を実物投影機で提示することによって、地理的な見方や考え方を把握できるようにする。	・自分はどんな条件のところに住んでみたいかを考え書き出すことができる。 ・住んでみたい条件を班の中で積極的に表現できる。【関】 ・課題を把握し人口増加率の偏りの要因を発展途上国と先進国に分類整理し追究できる。【思】 ◎ワークシートの評価と次時へのフィードバック
追究する過程	2	**「日本の人口の変化」** 1　日本の人口の変化を人口構成に視点を当ててとらえる。さらに他国と比較して日本の人口の特色を理解する。 2　日本の人口の特色を大観し、日本が抱える現代的・地理的な課題を追究する。 ○出生率を上げたほうがよいか？上げる必要はないか？理由もつけて考えてみましょう。	ワークシート2 △人口ピラミッドの富士山型・釣り鐘・つぼ型はどこの国（地域）どのような国（地域）で見られるかわかる。 ◇人口ピラミッドの３つの型の共通点や相違点を考え、なぜそこで、そのようになっているかがわかる。 △高齢化の原因である少子化は全国的なものなのか、一部の地域だけに見られるものなのかわかる。 ◇少子化に視点を当てて課題追究を行い、その解決策を考えることができる。	・人口ピラミッドの見方や作成は実物投影機とPower Pointを使い、視覚的にとらえやすく工夫して、課題解決の時間が多くとれるようにする。その際、アニメーション機能を使い人口構成の変化の様子を視覚的にとらえられるよう工夫する。 ・出生率に視点を当てて、自分なりの考えをもち、相互評価を通して思考を深められるようにする。	・人口ピラミッドの簡単な作成ができ、人口ピラミッドの特徴を読み取って３つに分類できる。【技】 ・人口ピラミッドを３つに分類したものを基になぜそこでそうなっているか、共通点や相違点について考えることができる。【思】 ◎ワークシートの評価と次時へのフィードバック
	3	**「日本の人口分布」** 1　複数の資料から日本の人口分布の偏りを大観し、国内の人口が大都市に集中していること、その要因が地方から大都市への人口移動であることを理解させる。 2　過密・過疎地域の分布の傾向を読み取り、それぞれの地域の問題点をあげ、次時以降につなげる。 ○あなたは、日本でどんな条件のところに住んでみたいですか？理由もつけて考えてみましょう。	ワークシート3 △日本全体を大観し、日本の人口がどこにどのように分布しているかわかる。 ◇日本の人口の偏りとなる要因を自然環境と社会環境に着目して考えられる。 ◇人口移動は関東以外の大都市圏でもみられることがわかる。	・自然条件や人口の移動と関連させて読み取れるようにする。 ・実物投影機とPower Pointを使って動きを入れた資料を提示し、人口の移動についてとらえやすくする。 ・どんなところに住みたいかを考えることによって、日本の人口の特色をつかみ課題について考えるための糸口とする。	・日本の人口分布図の読み取りを通して、日本全体を大観し、人口分布の特色を明らかにしている。【知】 ・日本の人口問題である過疎・過密地域の問題点をあげ、どんな条件の場所に住みたいかを考えることができる。【関】 ◎ワークシートの評価と次時へのフィードバック

No.2

単元	人口の特色をとらえよう　（10月16日～ 11月 4日　6時間）				
過程	時	学習活動・内容	地理的な見方（△）・考え方（◇）	学習活動への支援	評価（◎ポートフォリオ）
追究する過	4	**「人口が過密な地域の生活」** 1　横浜市を例に人口が増加してきた背景と、人口の増加に伴う問題点について考える。 ・課題把握する ・予想する（根拠を基に仮説を立てる） ・調べる（確かめる） ・まとめる 2人口が急増した横浜の問題点をあげ学習課題とし、過密解消への取組を考える。 ○あなたが市長だったら、過密解消に向けてどんな対策をとりますか？ ・課題把握する ・自分の考えをワークシートに書く ・班で交流する（相互評価） ・自己決定する（自己評価）	ワークシート4 △横浜の過密の様子を読み取ることができる。 ◇どうして横浜が人口増加してきたのか、自然的要因・社会的要因・他地域とのつながりを関連付けて考えることができる。 ◇地域的特色を一般共通性の視点から追究し、とらえ他の地域にも同様な場所があることがわかる。 ◇横浜市の中でも、人口密度が高いところと低いところがあることがわかる。	・Google Earthを使って、地形面から自然的要因と関連させて考えられるようにする。 ・既習事項から、社会的要因・他地域とのつながりも関連させて考えられるようにする。 ・過密解消に向けての対策を考えてから班で交流することにより、過密地域の地理的特色と問題の要因をより明らかにできるようにする。	・横浜市が過密化した要因を自然環境と社会環境に着目して考えられる。【思】 ・横浜市長になったつもりで人口急増に伴う問題点をあげ、過密解消への対策を考え、記述することができる。【技】 ◎ワークシートの評価と次時へのフィードバック
	5	**「過疎地域の生活」** 1　群馬県上野村を例に人口が減少し続けた背景と、人口の減少に伴う問題点について考える。 ・課題把握する ・予想する（根拠を基に仮説を立てる） ・調べる（確かめる） ・まとめる 2人口が減少し続けた上野村の問題点をあげ学習課題とし、過疎解消への取組を考える。 ○あなたが村長だったら、過疎解消に向けてどんな対策をとりますか？ ・課題把握する ・自分の考えをワークシートに書く ・班で交流する（相互評価） ・自己決定する（自己評価）	ワークシート5 △上野村の過疎の様子を読み取ることができる。 ◇どうして上野村が人口減少してきたのか自然的要因・社会的要因・他地域とのつながりを関連付けて考えることができる。 ◇地域的特色を一般共通性の視点から追究してとらえ、他の地域にも同様な場所があることがわかる。 ◇上野村の中でも、民家が集まっているところとまばらなところがあることがわかる。	・教科書と違う事例を県内から取り上げ、身近な問題でもあることを実感させる。 ・Google Earthを使って、地形面から自然環境と関連させて考えられるようにする。 ・既習事項から、社会的要因・他地域とのつながりも関連させて考えられるようにする。 ・教科書の事例と上野村を比較して関連付けて考え、他の地域にも同様な場所があることを理解させる。 ・過疎解消に向けての対策を考えてから班で交流することにより、過疎地域の地理的特色と問題の要因をより明らかにできるようにする。	・上野村の人口が減少し続けてきた要因を自然環境と社会環境に着目して考えられる。【思】 ・上野村長になったつもりで人口減少に伴う問題点をあげ、過疎解消への対策を考え、記述することができる。【技】 ◎ワークシートの評価と次時へのフィードバック
まとめる過程	6	**「まとめよう」** 1　課題追究した３つのテーマについてまとめる。 2　日本の特色を人口について多面的・多角的にとらえ、日本が抱えている人口問題について価値判断する。 3　客観テストに取り組む。	ワークシート6 △◇日本の人口問題のまとめで、人口分布等の地理的な空間による共通性や規則性、その要因によるなどことを記述でき、それを関連させて自分なりの解決策を明らかにできる。	・「少子高齢問題」「過密解消」「過疎解消」の３つのテーマでまとめられるようにする。 ・地理日記を1枚に仕上げ、自己の学習の高まりを実感できるようにする。	・世界的視野から日本の人口と人口密度、少子高齢化の課題を理解させるとともに、日本の人口に関する課題や解決策を振り返って日本の人口の特色を大観することができる。【技】【知】 ◎地理日記と客観テストの評価

(5)　課題解決型ワークシート・地理日記の作成及び活用

①　課題解決型ワークシート

表２　ワークシート上の発問一覧（見方や考え方を踏まえて作成し段階的に配列したもの）

ワークシート番号と小単元名	発　問　の　流　れ
1　世界の人口分布と人口の変化	△世界で人口が多い（少ない）ところはどこか　➡　◇なぜそこで、そのようになっているか自分の考えを書こう　➡　△世界で人口増加率が高い（低い）ところはどこか　➡　◇なぜそこで、そのようになっているか自分の考えを書こう
2　日本の人口の変化と特色	△人口ピラミッドが富士山型・つぼ型になっている国・地域はどこでみられるか ➡ ◇なぜそこで、そのようになっているか　➡　日本の人口ピラミッドの形はどのように変化したか、なぜそのように変化したか　➡　問題点　➡　解決策
3　日本の人口分布	△人口密度が高い・低い都道府県を順に３つ予想しよう　➡　◇なぜそこで人口密度が高い・低いのか考えよう　➡　日本の人口の偏りについて考えよう　➡　過密地・過疎地の問題点を考えよう
4　人口が過密な地域の生活～横浜市～	△過密地横浜市はどこに、どのように広がっているか　➡　◇なぜ横浜市は過密なのか　➡　◇いつ頃から人口が増えてきたのか　➡　◇過密地は横浜市でしか見られないのか　➡　問題点　➡　解決策（あなたが市長だったら）　➡　◇横浜市の中での様子
5　過疎地域の生活～上野村～	△過疎地上野村はどこに、どのように広がっているか　➡　◇なぜ上野村は過疎なのか　➡　◇いつ頃から人口が減少してきたのか　➡　◇過疎地は上野村でしか見られないのか　➡　問題点　➡　解決策（あなたが村長だったら）➡　◇上野村の中での様子
6　人口面からみた日本の特色をまとめよう	人口面からみた日本の特色は世界的に見てどうか　➡　日本全体から見てどうか　➡　人口面から見た課題　➡　解決策　➡　単元全体を通して分かったこと、気付いたこと、新たな疑問を書こう（地理日記）

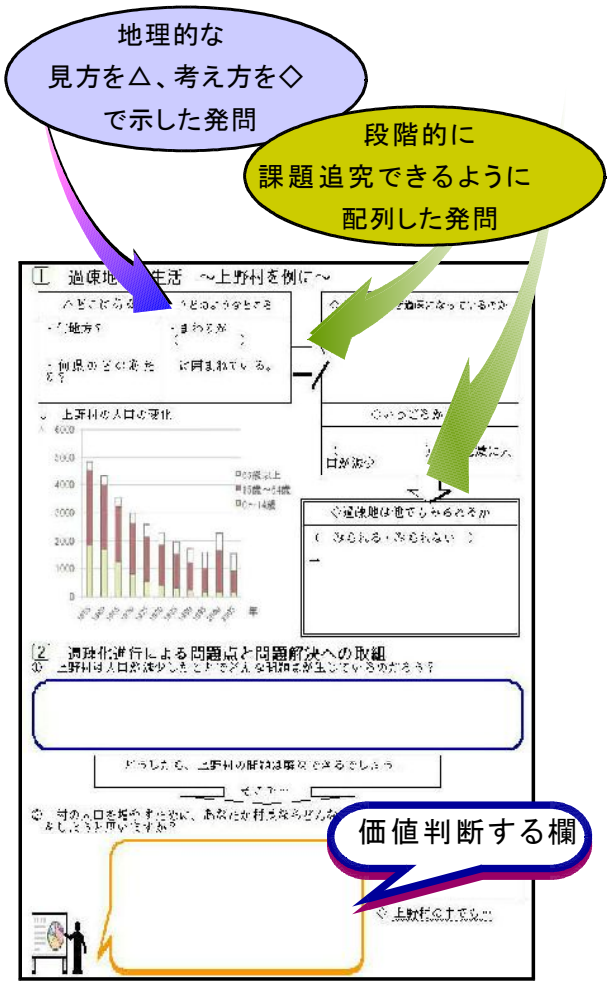

図２　地理的な見方や考え方の視点に基づいたワークシート（表）

作成したワークシートは表２のとおりである。地理的な見方や考え方の視点に基づいたワークシートを毎時間活用して継続的な課題解決学習を行う。また、これをポートフォリオとしても活用する。図２はワークシートの表面を示したものである。地理的な見方に基づく発問に△、地理的な考え方に基づく発問には◇を表示し、その他の発問と区別するとともに段階的に課題解決できるようにした。図３はワークシートの裏面を示したものである。学習の振り返りとして、わかったことや気付いたことを自由記述させる欄を設けた。さらにその時間の地理的な見方や考え方の達成度の評価規準を示して自己評価欄を設けた。

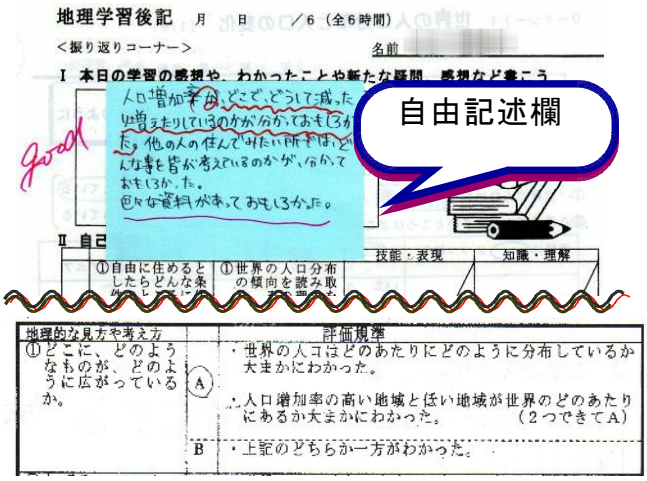

図３　学習後の自由記述欄と地理的な見方や考え方についての自己評価　ワークシート（裏）

② 地理日記

毎時間使用するワークシートをポートフォリオとして蓄積し、それをもとに再構築して仕上げた一枚型ポートフォリオである。（図４）図４①では、地理的な見方や考え方の毎時間の自己評価が一覧できる。図４②では、学習前と学習後の自己の変容が一覧できる。

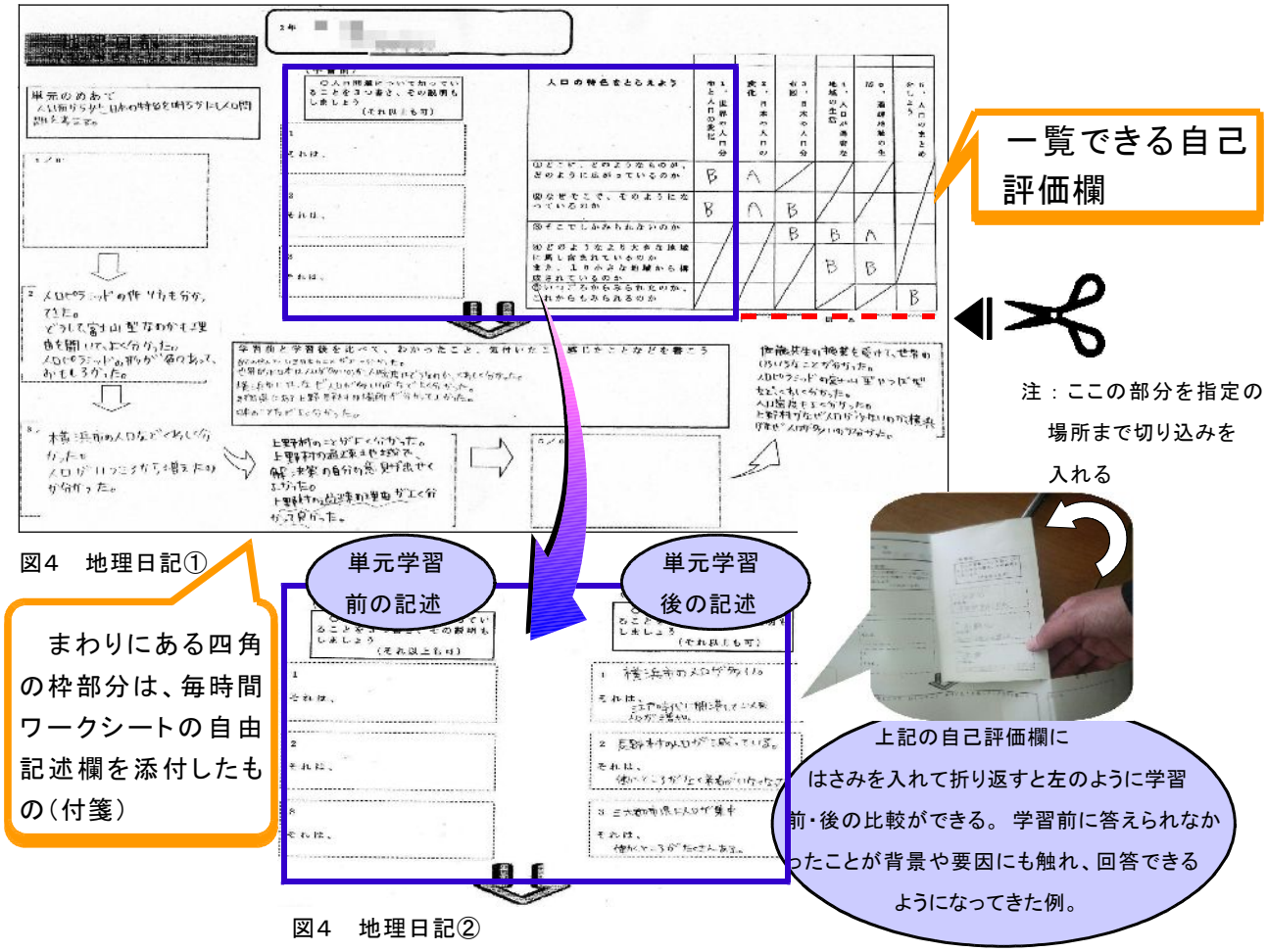

図４　地理日記①

図４　地理日記②

(6)　客観テストの作成及び実施

地理的な見方や考え方に関する基礎的な学力調査問題を作成する。図５に客観テストの例を示す。客観テストはワークシートや地理日記の記述による評価に客観性をもたせるために実施する。単元学習前と後で行い、それぞれ授業で扱っていないものを基にして出題する。

《単元学習前のテスト》

① タイ王国について、資料を見て次の問いに答えよ。

(1) タイで米作りがさかんなところはどのあたりか。地形図を見て、「～の周辺」という形で答えよ。

（地形図略）

(2) タイで米作りがさかんなのはなぜか。資料１，２を見て答えよ。（資料１．２略）

図5－①　地理的な見方や考え方に関する事前テスト

《単元学習後のテスト》

① 世界の主食分布図を見て、次の各問いに答えよ。

(1) 世界で米を主食にしているところは、どのあたりに多くみられるか。資料を見て「～あたり」という形で答えよ。

（資料略）

(2) 地図中のDの地域で，米や穀物類でなく、肉・魚が主食となっているのはなぜか。土地の様子や下の資料を参考にして答えよ。（資料略）

図5－②　地理的な見方や考え方に関する事後テスト

Ⅴ　結果と考察

１　地理的な見方や考え方の視点で作成した発問を段階的に配列した課題解決型ワークシートを活用する学習を毎時間行うことは、地理的な見方や考え方を身に付けることに有効であったか。

① 学習に関するアンケート調査から

事後アンケートで、ワークシートに示した△や◇の発問が、地理的な見方（どこに、どのように）や考え方（それは、なぜそうなっているのか）で地理的事象を考えることに役立ったかを問う調査を行った。調査結果によると、「役立ったと思う」38％、「少し思う」が62％で、合わせると100％であった。このことから、発問を△や◇で区別し段階的に配列したことが、地理的な見方や考え方を身に付けることに役立ったと考える。

また、事後アンケートで、以前と比べて複数の資料を使って必要なデータを読み取ることができるようになったかという調査を行った。その結果、思う・少し思うを合わせて８割以上の生徒ができるようになったと感じている。さらに、以前と比べて世界の様子や人々の生活を、もっと知りたくなったかの問いでは、思う・少し思うを合わせて９割を超えた生徒が肯定的にとらえている。

これらの調査結果から、見方や考え方の視点に基づいた発問を段階的に配列した課題解決型ワークシートを活用することで、地理的な見方や考え方を意識しながら意欲的に課題追究できたと考える。

② 学習の様子から（全体）

単元の導入で「世界中、自由に住めるとしたら、どんな条件のところに住みたいですか。」という発問を行い、KJ法を用いて班別で話し合った。これは、段階的に課題追究するための最初の発問である。班活動では、「海の近く」「都会」などという声が聞かれた。ここでまとめたものが、自然環境や社会環境に影響され、そのために人口の偏りが見られることにつながる手がかりになった。（図６）

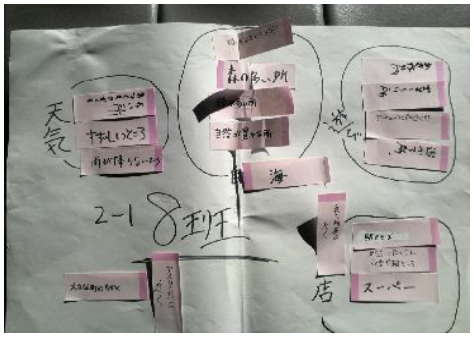

図6　KJ法を用いて班でまとめたもの

また、課題解決型ワークシートを活用する初めての場面では、班別でまとめたものや世界の人口分布図、さらに世界の地形図や気候区分図を実物投影機で拡大表示し、ワークシートの設問と対応させたことで、生徒は地理的な見方や考え方に視点を当てて学習することができた。（図７）

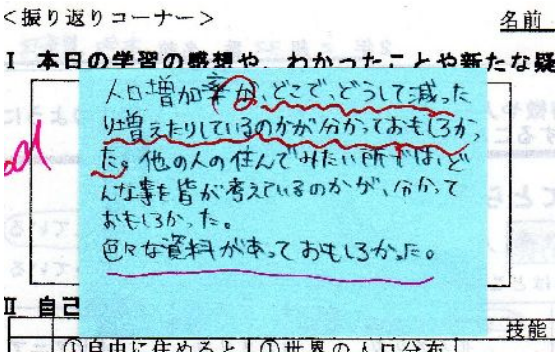

図７　生徒の自由記述欄

③ 学習の様子から（抽出生徒）

表３は生徒に価値判断させる設問である。地理的な考え方の高まりを記述内容から読み取るため、表３の設問に対する抽出生徒の記述を比較した。

表３　生徒が価値判断する2校時と5校時の設問

2校時	「日本の人口の変化と特色」 出生率を（上げる・上げる必要はない） 選択理由と自分なりの解決策
5校時	「過疎地域の生活」 過疎化進行による問題点と自分なりの解決策

注：２校時（　）内は、どちらか選択して答える

生徒Ａ

2校時（上げる） 理由は、労働力が不足していては、日本の農業は発達しないし、福祉の負担が増えれば、大変な思いをする人が多くなってしまうと思うから。 そのために、例えば、子どもを二人産んだら二人目の子どもの医療費を免除とかしたらいいんじゃないか。
5校時 問題点は、高齢者が増え、福祉の負担が増えること。医療機関の不足。 解決策として、観光施設を増やす。周りから人を集められるように自然や特産品をPRする。いろいろな催し物を開く。

注：下線＿＿＿は理由について、＿＿＿は問題点を〰〰は価値判断した自分なりの解決策を記述したことを示す。
以下の生徒B、Cも同様

生徒Ａの記述は、２校時と５校時とも地理的事象に対する理由や問題点をあげ、自分なりの解決策をしっかり答えている。単元導入での発問で地理的事象に対する背景や要因に自然環境だけあげ

て答えていたが、その後は、社会環境にも目を向けた考察や価値判断をしていて地理的な考え方が高まってきたことが伺える。

生徒Ｂ

2校時（上げる） 理由は、税金が高くなって、年金が減るから。お年寄りばかりになってしまうから。 そのためには、子どもをたくさん産む。
5校時 問題点は、高齢者が多くなる。医療機関が近くにないとお年寄りは行けなくなる。 解決策として、観光などを多くする。いろいろなサービスを用意する。例えば、子どもが住んでいたら、その子どもの給食代を低くしたりする。大きなショッピング店をつくる。

生徒Ｂの記述は、２校時と５校時を比較すると記述量が増し、解決策に具体性がみられ内容が充実してきた。過疎化問題の特に生産年齢人口を何とか増やすことを意識した内容である。これから、なぜ過疎になっているかといった地理的な考え方に基づいて意欲的に考えているのがわかる。

生徒Ｃ

2校時（上げる必要はない） 理由は、出生率を上げると亡くなる人が多くなるため、出生率を上げる必要はないと思う。 解決策…記述なし
5校時 問題点は、若い人が都市に働く場所を求めて村を出て行ってしまうので村に高齢者が多く残ってしまう。 解決策として、若い人が働けるような大きなビルを建てる。いろんなお店を建てる。自然をもっと増やす。

生徒Ｃの２校時の記述は、人口ピラミッドの富士山型の地域やつぼ型の地域の人口問題について、それらが、どこの国や地域で見られ、なぜそうなっているのかなど、その背景や要因が正しく理解できていないと思われる。解決策についても記述が無く、価値判断できていない。しかし、５校時の記述を見ると、過疎地域がどこにどのようにあるかを正しく読み取れているので、過疎地の問題点を正しくとらえ、具体例をあげて解決策を記述できている。これから、ワークシートを毎時間使ってきたことによって価値判断できる力が付いてきたと考えられる。

④　地理日記の内容から

６校時のまとめの過程で単元の学習前と同じ「人口問題について知っていることを書きましょう」という設問を与え、生徒に記述させた。学習前と学習後を比較すると、97％の生徒の回答が増え、その内容についても記述できた生徒が８割を超えた。また、単元全体の学習を振り返る欄の記述で、地域的特色や地域の課題について触れた生徒が７割を超えていた。以下は生徒の記述を抜粋したものである。

いろいろなグラフや写真が見られておもしろかったです。日本の人口には特徴があって今、高齢者が多く大変だなと思った。横浜市のように人口が多いところは一見良いところに見えるが、問題点も多いことが分かった。どんなところでも人口の多いところ少ないところがあることが分かった。

このように、地理日記の記述内容からも地理的な見方や考え方を高めることに有効であったと言える。

⑤　客観テストの分析結果から

単元学習前と学習後に、地理的な見方や考え方に関する客観テストを行った。

地理的な見方を問う問題では、58％の生徒が１～３ポイント伸びた。また、満点を維持している生徒を効果ありに含めると75％に効果があったと言える。（図８）

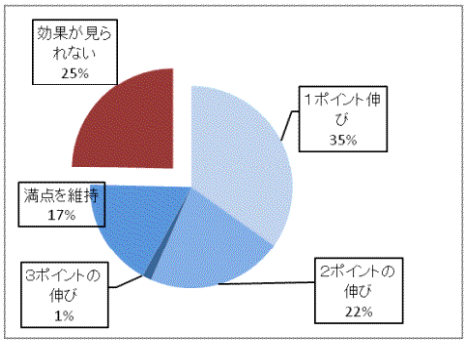

図８　事前と事後の客観テストによる地理的な見方の得点の変化　　注：１問１点３点満点

地理的な考え方を問う問題では、51％の生徒が１～3ポイント伸びた。また、満点を維持している生徒を効果ありに含めると67％に効果があったと言える。（図９）

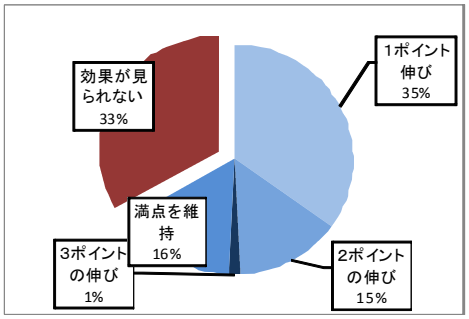

図９　事前と事後の客観テストによる地理的な考え方の得点の変化　　注：１問１点３点満点

⑥　地理日記と客観テストを併用した検証

表４は抽出生徒の地理日記と自己評価、客観テストの学習前と学習後を比較したものである。

表4　抽出生徒の学習前後の比較

	生徒Ａ		生徒Ｂ		生徒Ｃ	
	学習前	学習後	学習前	学習後	学習前	学習後
地理日記見方	2	3	0	3	0	2
地理日記考え方	2	3	0	2	0	2
自己評価見方	A	A	B	B	B	A
自己評価考え方	B	A	B	A	B	A
テスト見方	3	3	1	2	1	2
テスト考え方	3	3	2	2	1	3

注：数字は３点満点　自己評価は２段階評価でAは十分できた　Bはだいたいできた

それぞれの項目を関連付けると、生徒Ｂは客観テストで地理的な考え方は伸びていなかったものの、記述面の変容から概ね満足できる結果であり、どの段階の成績の生徒にも地理的な見方や考え方を高めることに効果があったと言える。

以上の①～⑥の結果から、地理的な見方や考え方の視点に基づいて作成した発問を段階的に配列した課題解決型ワークシートを活用する学習を毎時間行うことは、地理的な見方や考え方を身に付けることに有効であったと考える。

２　課題解決型ワークシートの生徒の記述と自己評価を教師が評価し、助言をフィードバックすることは、生徒の思考や気付きを促し、身に付けた地理的な見方や考え方をさらに高めることに有効であったか。

①　ワークシートの記述から

ここでは地理的な見方や考え方の高まりを記述内容から読み取るため、２校時と５校時の振り返り自由記述欄を点数化して比較した。点数化の基準は、分かったこと一つにつき１点、具体的な内容や学習に前向きな内容一つにつき１点とした。なお、２校時と５校時は、それぞれ前時と地理的な見方や考え方の評価の観点が同じであり、自己評価欄での分析に重点を置いたところである。比較の結果、２校時の平均は2.4点で５校時の平均は3.3点と全体として伸びていることが分かった。

ここでは、考察したことを基に価値判断するよう生徒に助言を多く与えた。その結果、課題解決型ワークシートの記述内容に変化が見られ、課題に対する自分なりの解決策がしっかり書けるようになっている生徒が目立った。そのことを自由記述欄に書いた生徒が数名いる。

②　抽出生徒の学習の様子から

４校時と５校時の記述内容を比較した。４校時は「人口が過密な地域の生活」で横浜市を例に学習した。５校時は「過疎地域の生活」で上野村を例に学習した。対照的な地域であるが、学習の流れは共通するところが多く、フィードバックしたことがどう生かせているか読み取りやすいところである。さらに学習前と学習後を比べて分かったこと・感じたことなどを地理日記の記述から読み取った。

4校時後の生徒Aへのフィードバック

なぜ横浜が過密なのか、そこでの問題点や解決策を考えるなどしっかり学習できているね。いいぞ。過密地は他でも見られるかや横浜の中でも過密なところとそうでないところに目を向けてみよう。

生徒Aの5校時の記述

過疎地は他でも見られる。それは、他の都市の発展により、そこに働きに行く人が増え、人口が減少し産業が衰退すれば過疎が進む。上野村の中でも民家の集まっている地域やまばらな地域の原因を調べた。

地理日記による記述

・日本の人口の特色をつかむことができた。
・人口から生じる様々な問題を知ることができた。→解決策の考察ができた。
・人口がどのようになってきたのか、推移も知りたい。

このように生徒Ａは、４校時後のフィードバックで学習の支援を行ったことで、思考がより促されたと考える。

4校時後の生徒Bへのフィードバック

ワークシートを使ってしっかり学習が進められているね。横浜のような場所はないか。それと、横浜の中はみんな同じなのか考えてみるといいね。

生徒Bの5校時の記述

過疎地は他でも見られる。上野村の中でも民家のあるところないところがある。

地理日記による記述

・日本はいま少子化、高齢化が進んでいることが分かった。
・他にも過密している地域、特に三大都市圏に集中していて、過疎地域との差が激しいなど。

生徒Ｂは、このようなフィードバックを行ったことで、思考や気付きが促されたと考える。特に地理日記による記述は学習の成果を感じる。

4校時後の生徒Cへのフィードバック

ていねいな字でワークシートにまとめているね。横浜はなぜ人が多く集まるのか、住みたい、住みやすい条件がそろっているのかな。考えてみよう。

生徒Cの5校時の記述

若い人が働く場所を求めて村を出て行ってしまうので、村には高齢者が多く残ってしまう。 過疎地は他でも見られる→徳島県旧西祖谷山村

地理日記による記述

・自分の住んでいる日本のことがよく分かった。 ・世界的に日本は人口が多いのかとか人口密度がどうなのかとか分かった。 ・横浜市には、なぜ人口が多いのかなどよく分かった。 ・群馬県にある上野村の場所が分かってよかった。 ・日本のことなどよく分かった。

生徒Cは、過疎地を他に徳島県旧西祖谷山村と記述でき、ワークシートの資料と教科書の資料を関連付けて考えられているので、地理的な考え方の高まりの根拠の一つと言える。

以上の様子から、生徒の記述への助言をフィードバックすることは、地理的な見方や考え方をさらに高めることに有効であったと考える。

Ⅶ　研究のまとめ

本研究では、二つの手だてを通して、地理的見方や考え方が高まったことが検証された。次に、検証のために二つの方法を取り入れた結果、実践の前後でどのような成果と課題が見られたかについてまとめる。

1　成果

①　課題解決型ワークシートの活用によるもの

○　地理的な見方や考え方の視点で作成した発問を、それぞれ△や◇で表示し、段階的に配列したことで、生徒は情報を読み取り、課題を把握してその背景や要因を考えやすくなり、地理的な見方や考え方を身に付けられた。

②　課題解決型ワークシートの記述を評価し、助言をフィードバックすることによるもの

○　毎時間の課題追究を評価、助言してフィードバックすることで、生徒の思考や気付きを促す学習の支援につながり、地理的な見方や考え方が高まった。

③　地理日記の活用によるもの

○　毎時間のワークシートをポートフォリオとし、それを基に地理日記に再構築することで、一目で学習の過程を振り返ることができ、地理的な見方や考え方の高まりを検証するのに有効であった。生徒自身が学習の高まりを感じ取れたことと、教師が生徒の思考の変化を読み取れたことのよさがあったと考える。

○　毎時間の自己評価を一覧表に記すことで、地理的な見方や考え方を意識して学習できるようにさせられたと考える。

④　客観テストの活用によるもの

○　地理日記と客観テストの分析結果を関連させて評価をすることで、記述の変容や自己評価に客観性が加えられ、地理的な見方や考え方が高まったことの検証に役立った。

2　課題

①　単元構想上の課題

○　十分時間をかけて計画し授業を実施したはずだったが、それでもワークシートや地理日記のまとめで十分な時間が無い場面があった。発問や資料などの内容の精選と十分な単元計画を練る必要があると感じた。

②　授業展開上の課題

○　ワークシートの自己評価規準が生徒にとって分かりづらかった面もあった。より生徒に分かりやすい評価規準にすることで、地理的な見方や考え方をとらえやすくなると考える。

○　地理日記を再構築させるための内容が過多だったため、生徒が自己を振り返る時間が十分でなかった。また、地理日記の記述内容の詳細な評価規準が用意できていなかった。学習活動の時間を十分確保し、生徒の記述文の評価規準を明確にし、適切な評価と助言によるフィードバックを行うことでさらに地理的な見方や考え方を高められると考える。

③　他分野での授業展開上の課題

○　本研究の手だてである見方や考え方の視点に基づいた課題解決型ワークシートの活用を通した学習は、地理的分野のほかに歴史・公民的分野でも実践が可能だと考える。社会科における各分野での見方や考え方を明確にし、中学三年間を見通した系統的な学習ができるよう、本研究の可能性を探っていきたい。

〈主な参考文献〉

・群馬県教育研究所連盟　編著　『実践的研究のすすめ方』　東洋館出版社（2003）
・堀　哲夫　編著　『一枚ポートフォリオ評価　中学校編』　日本標準（2006）
・明治図書　　編著　『社会科教育（2008年４月～12月号』　明治図書（2008）
・福島県教育センター2005年　『平成16年度実践事例集』『平成16年度研究紀要』